



2025.12

## 東松島市

●面積: 101.30km<sup>2</sup>  
●人口: 37,016人  
(令和7年10月、推計人口)



東松島市は、松島湾の東側に広がる自然豊かなまち。奥松島の景勝地や海の恵みが魅力で、震災からの復興を進めながら持続可能な地域づくりを進めています。

写真: 大高森から松島を望む (筆者撮影)

## 1 概況 ~風わたる青の国へ 東松島市~

東松島市は、広域仙台都市圏の東側、広域石巻圏の西端に位置し、東は石巻市、南は仙台湾・太平洋に面しています。市内には、風光明媚な「日本三景松島」の一角をなす「奥松島」があり、松島湾で最も大きな宮戸島の「大高森」からは、松島を箱庭のように眺められる大パノラマが広がり、松島四大観の一つ「壮観」と呼ばれています。日本三大溪「嵯峨渓」や日本最大級の貝塚で国の史跡「里浜貝塚」等もあり、縄文の古から多くの人々を魅了してきました。また、航空自衛隊のアクロバットチーム「ブルーインパルス」が所属する松島基地があります。

平成17年4月に矢本町と鳴瀬町が合併し、東松島市

が誕生。日本三景松島の東側に位置することから東松島市と命名されました。平成23年3月に発災した東日本大震災では、市街地の約65% (全国で最も高い比率)が津波で浸水し、死者・行方不明者1,133名、1万4千棟を超える家屋被害、産業・公共施設の喪失など極めて甚大な被害を受けましたが、国や県等の支援を受けて、「復興のモデル市」を目指し、平成23年12月には「環境未来都市」に、平成30年6月には被災3県で唯一「SDGs未来都市」の第1次指定に選定される等、サステナビリティをキーワードに着実に復興を進めてきました。

## 2 基本情報 ~低い昼夜間人口比率、石巻市のベッドタウン的な位置づけも~

東松島市の面積は、県内17位となる101.30km<sup>2</sup>です。人口は、東松島市が誕生した平成17年の約4万3千人をピークに、平成23年の東日本大震災により大きく減少、その後も緩やかな減少傾向が続いています。直近の令和7年10月の推計人口は37,016人となっています。社人研(国立社会保障・人口問題研究所)によれば2050年の人口は27,332人<sup>[1]</sup>(対令和2(2020)年比▲30.1%)にまで減少すると推計されています。

また、東松島市の高齢者(65歳以上)人口比率は29.6%(令和2年国勢調査)と県平均の28.1%をやや上回っていますが、社人研の推計では2050年にこの比率は41.8%にまで上昇すると推計されています。また、生産年齢(15~64歳)人口比率は、58.0%(同上)ですが、

図表1 宮城県と東松島市の人口推移



資料: 総務省統計局「国勢調査報告」、宮城県「宮城県推計人口」

2050年の比率は49.3%に低下、人数では▲40.6%(令和2年比)と推計されています。

一方、東松島市民の市内での通勤・通学者の比率は50.0%(県内20位)と半数に留まります。市外への通勤・通学者の流出が市内への流入を上回るため、昼夜間人口比率<sup>[2]</sup>は84.81(令和2年国勢調査、県内32位)と100を大きく割り込んでいます。隣接する石巻市(通勤・通学者流出率30.0%、同流入率14.0%)のベッドタウン的な位置づけにもあり、仙台市(同流出率7.4%、同流入率1.6%)などにも流出超過となっており、魅力的な職場の確保が求められています。

東松島市は、震災復興の成果を踏まえつつ、心の復興の継続とともに、「地方創生」と「SDGs」を基調とし、地域新電力事業や定住化促進事業を営む(一社)東松島みらいとし機構(HOPE)などをプラットフォームとして、市民や地域企業等と共にまちづくりを推進してきました。市では「東松島市市第3次総合計画」(計画期間令和8~17年度)を策定中ですが、第2次計画のまちづくりの将来像である「住み続けられ持続・発展する東松島市」を継承し、サブタイトルを「誇れるまち、選ばれるまち 東松島プライド」に更新、市民が誇りを持てる魅力あるまちづくりを推進しながら、移住・定住や関係人口の増加を図り、多くの人々に選ばれる持続可能なまちの実現を目指す方向性を示しています。計画(案)には、まちづくりの将来像実現に向けて、人口減少という課題に向き合いながら、地域の魅力を高め、引き続き地方創生・SDGsを基調とし、環境に配慮した持続可能な地域社会を築くことを中心に据え、①地域経済の活性化と若者

や子育て世代に選ばれる地域づくり、②地域全体で支える学びと子育て環境の充実、③誰もが安心して暮らせる市民協働の地域社会、の3つの基本理念を掲げています。更に3つの理念に基づく以下の5つの方向性を示しています。①産業と活力のある住みたくなるまち(基幹産業としての農林水産業の活性化、地域資源を生かした持続可能な観光の振興、商工業振興・企業誘致と働く場の確保、移住・定住の促進)、②子育てしやすく誰もが健康で安心して暮らせるまち(子育て環境の充実、誰一人取り残さない地域共生社会の実現、健康づくり推進、市民誰もが活躍できるまちづくり推進)、③次代を担う人材を育む学びと文化・スポーツのまち(子どもたちの可能性を広げ伸ばす学力保障と成長保障、郷土を愛する豊かな心の育成と生涯学習の推進、文化の継承と振興、スポーツ健康都市宣言を踏まえた振興)、④災害に強く安全で快適で美しいまち(災害に強いまちづくりの推進、消防・交通安全・防犯体制強化、快適で美しい自然環境の形成と保全、良好な住環境の整備、安全で利便性の高い交通環境の充実)、⑤持続可能な行財政運営が図られ市民から信頼されるまち(効率的で持続可能な行財政運営、国・宮城県及び多様な主体との連携、利便性の高い行政サービスの提供)。これらの基本理念や方向性に基づく施策の実施等により人口減少を緩和させ、2050年の目標人口として30,500人の維持を目指しています。

[1] 国立社会保障・人口問題研究所(社人研)が2023年12月に公表したデータによる。高齢者比率、生産年齢比率も同様。

[2] 「昼夜間人口比率」とは、夜間人口100人当たりの昼間人口。

## 3 産業の状況

### (1) 市内総生産

#### ~公務、不動産、保健衛生・社会事業などが牽引~

令和4年度の東松島市の市内総生産額は1,049億円と、県内35市町村中17位(人口一人当たりでは29位)です。産業別(図表2)では、航空自衛隊松島基地を背景とした「公務」が196億円と最も多く、次いで「不動産」141億円、「保健衛生・社会事業」129億円が続きます。産業別生産額の構成比を宮城県と比較すると、東松島市の構成比が宮城県の構成比を上回るのは「公務」「建設業」「運輸・郵便業」等ですが、県平均を下回る業種には「製造業」「専門・科学技術・業務支援サービス業」「卸売・小売業」等が含まれます。

東松島市の最近11年間の市内総生産額の推移(図表3)

図表2 東松島市の産業別市内総生産額(令和4年度)

	実額(億円)		構成比(%)		
	東松島市	宮城県	東松島市	宮城県	
(a-b)	(b)	(a)	(b)	(a-b)	
第一次産業	27	1,392	2.6	1.4	1.1
農業	16	811	1.5	0.8	0.7
林業	0	66	0.0	0.1	-0.0
水産業	11	515	1.0	0.5	0.5
第二次産業	184	20,717	17.5	21.5	-4.0
鉱業	0	156	0.0	0.2	-0.2
製造業	84	14,749	8.0	15.3	-7.3
建設業	100	5,812	9.5	6.0	3.5
第三次産業	839	74,172	80.0	77.1	2.9
電気・ガス・水道業・廃棄物処理業	25	2,151	2.4	2.2	0.1
卸売・小売業	101	15,456	9.7	16.1	-6.4
運輸・郵便業	88	4,931	8.4	5.1	3.2
宿泊・飲食サービス業	15	1,581	1.4	1.6	-0.3
情報通信業	21	2,948	2.0	3.1	-1.1
金融・保険業	19	3,337	1.9	3.5	-1.6
不動産業	141	11,982	13.5	12.5	1.0
専門・科学技術・業務支援サービス業	25	9,188	2.4	9.6	-7.1
公務	196	5,823	18.7	6.1	12.6
教育	28	4,120	2.7	4.3	-1.6
保健衛生・社会事業	129	8,954	12.3	9.3	3.0
その他のサービス	51	3,701	4.8	3.8	1.0
総生産額	1,049	96,147	100.0	100.0	0.0

資料: 宮城県「宮城県市町村民経済計算」  
(注) 税加除等により各業種の計と合計は一致しない



得しています。宮城オルレ奥松島コースでのトレッキング、縄文文化に触れる体験、現役漁師との漁業や地引網体験、牡蠣や海苔などサステナブルな地元食材や地域資源の再発見と魅力向上、周辺観光地との連携の強

化、「道の駅東松島」を拠点とした情報発信、市内産業連携による“東松島ブランド”的普及啓発、更にはインバウンド観光客受入のための環境と体制づくり等、数多くの取り組みを行い、更に磨きをかけようとしています。



(写真)左:宮城オルレ奥松島コースの出発点「あおみな」、中央:宮戸島月浜で地引網体験、右:道の駅東松島(筆者撮影)

## 5 ふるさと納税 ~東松島ブランド発信の切り札に~

東松島市のふるさと納税の受入額は、市内で生産される海苔、味噌、日本酒、野菜スープ、牛タン、ブルーインパルスグッズ等を中心とした特産品による返礼品開発を進め、令和元年度に6億59百万円を記録、令和6年度は3億22百万円となっています(図表9)。一方、ふるさと納税の受入額については、①安心してふるさとで暮らせる福祉に関する事業、②子どもを健やかに育む環境づくりに関する事業(学校情報化事業など)、③安全で安心して暮らせる防災環境の整備に関する事業、④自然環境の保全や再生に関する事業(松くい虫防除等事業など)、⑤産業の活性化に関する事業(宮城オルレ事業など)など多方面に活用されています。

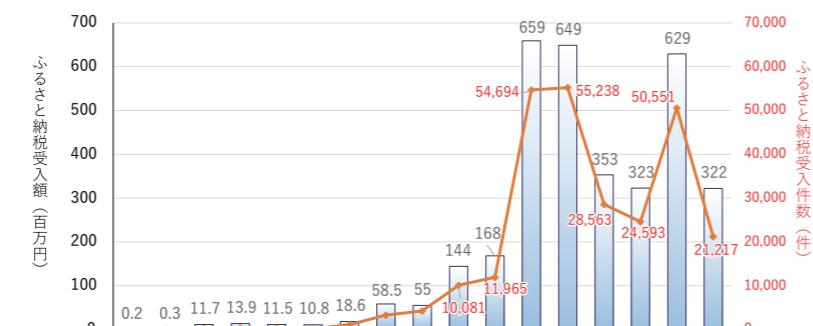
また、企業版ふるさと納税については、「東松島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、4つの総合戦略(①東松島市への移住・定住の流れをつくる、②安定した雇用を創出する、③若い世代の結婚・出産・子育て

の希望をかなえる、④時代に合った地域をつくり、安全・安心な暮らしを守る)に沿って受入、活用されてきました。今後も、引き続き寄付の受け入れを募っており、令和5年10月には、企業版ふるさと納税の推進に関する契約を七十七銀行と締結し、民間企業の本制度の活用を促進するとともに、官民連携事業の創出等を通じた地方創生の推進を図ることとしています。



写真提供:東松島市

図表9 東松島市ふるさと納税受入額の推移



資料:総務省「ふるさと納税に関する現況調査」



## ブルーインパルスと共に 「創造への挑戦」

航空自衛隊の航空祭や国民的行事などで、華麗なアクロバット飛行を披露する専門チーム、ブルーインパルス(正式名称:第4航空団第11飛行隊)。青と白にカラーリングされた機体が、大空で展開する一糸乱れぬフォーメーションやダイナミックなソロ演技は誰もが驚き、憧れます。東松島市のシンボルとして、観光やふるさと納税返礼品等のシティーセールスやシビックプライドの重要な要素となっています。市内には郵便ポストやマンホールの蓋など至るところにブルーインパルスがデザインされていますので、東松島市を訪れた際は探してみては如何でしょうか。

東日本大震災の発災当時、ブルーインパルスは九州新幹線全線開通記念の展示飛行のため福岡県芦屋基地に出向いており被災を免れました。松島基地では、航空機28機を失う等の甚大な被害を受けながらも、所属隊員の皆さんのが被災者の救助・救援活動に奔走したことは、今も私たちの記憶に残っています。平成25年3月にブルーインパルスは松島基地への帰還を果たし、平成29年8月には航空祭が震災後初めて本格的に開催され、「復興の象徴」として活躍します。令和2年3月20日、震災復興を理念の一つに掲げる2020東京オリンピックの聖火がギリシャから空路で松島基地に到着した際のセレモニーでは、ブルーインパルスが松島基地上空に五輪のマークと隊形飛行をカラースモークで描き出し歓迎しました。ブルーインパルスの合言葉は「創造への挑戦」です。東松島市もブルーインパルスと共に地方創生・サステナビリティの「創造への挑戦」を続けることでしょう。



(写真)航空自衛隊HPより



(写真)左:市内のマンホールの蓋、右:市内の郵便ポスト(筆者撮影)

## 6 おわりに ~「住み続けられ持続・発展する東松島市」を目指して~

東松島市が毎年行っている市民満足度調査(直近は令和7年7月実施)を見ると、「住みやすいと思うか」について「そう思う・どちらかといえばそう思う」と肯定的な回答が74.9%、「住み続けたいと思うか」については同76.1%、「東松島市に愛着を感じているか」は同66.7%と2/3を超える、「東松島市を誇りに思うか」は同58.4%とやや低いものの過半数を超えています。一方、施策に関する評価は、重要度1位の「子育て環境の充実」(満足度83%)、同2位の「災害に強いまちづくりの推進」(満足度89%)と極めて良好ですが、「安全で利便性の高い交通環境の充実」(重要度6位、満足度73%)、「商工業振

興・企業誘致と働く場の確保」(重要度8位、満足度79%)については、満足度は高いとは言え、課題も残っているようです。

このような市民の声に応え、まちづくりの主要課題に対応するため、市が策定中の第3次総合計画(案)が掲げる将来像「住み続けられ持続・発展する東松島市 - 誇れるまち、選ばれるまち 東松島プライド」を目指し、前述の3つの基本理念と5つの方向性に沿って、今後も様々なまちづくりの活動が進められていくことが期待されます。